

## 応募作品



タイトル

雪の湖畔

ペンネーム

阿野 俊文

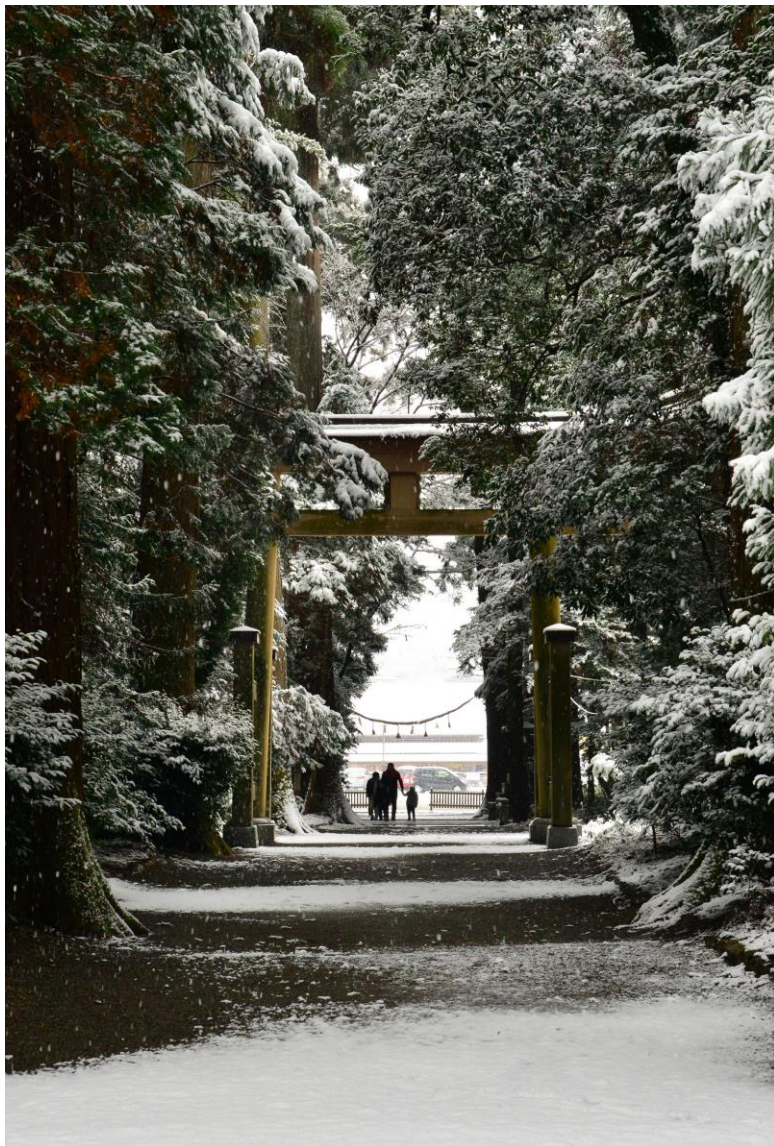
場所

宍粟市波賀町引原 周辺

コメント

ダム湖の外周道路から撮らせてもらった。秋の紅葉で知られる長源寺はモノトーンの雪の佇まいにも格別のものがある。練るに練られたであろう寺院建築は言わずもがなとしても、無雪期には気付きもしなかったが、この白鳥【しらとり】が大きく翼を広げたような観覧席の造形美の見事さはどうであろう。

## 応募作品



タイトル

巨木の参道

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市一宮町須行名 周辺

コメント

国道に接する参道ながら、一步入った途端のこの静謐。さすが播磨國一宮と言わざるを得ない。雪の朝、圧するような杉の巨木の参道に小さな子の手を引いた家族の影がぽつんと現れた。思わず家族の幸せを祈りながら撮らせてもらった。

## 応募作品



タイトル

楽里の朝焼け

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市一宮町楽里 周辺

コメント

北方より流れ下ってきた揖保川が、山塊に阻まれて大きく迂回する楽里の河原。その川面に朝焼けの峰々の影が揺らんでいた。

## 応募作品



タイトル

藤娘ひとり

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市山崎町上寺 周辺

コメント

早朝、上寺町の千年藤を訪れた。頭上の藤間から差し込む朝陽と花びらが散る床の木漏れ日。常とは異なる情景が見られた。朝の光を受けて佇む藤娘の姿が印象的で作品名とした。

## 応募作品



タイトル

大荒れの雲海

ペンネーム

阿野 俊文

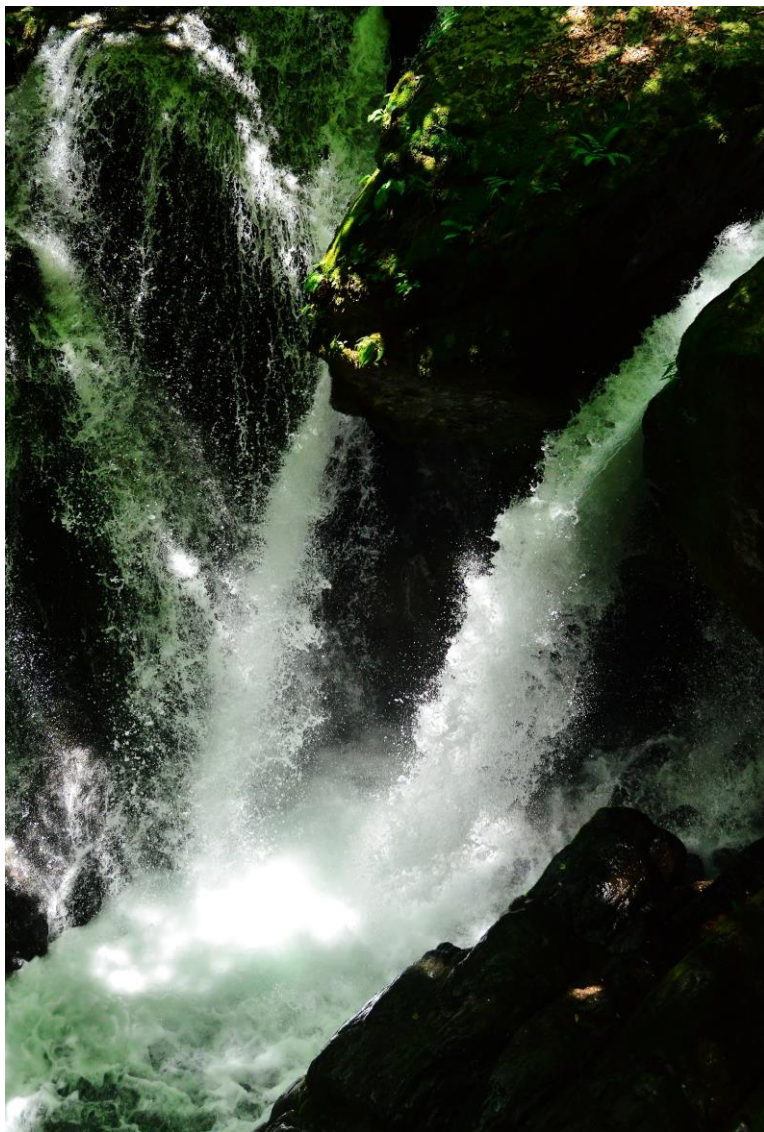
場所

宍粟市一宮町高野 周辺

コメント

一宮町の絶景スポットとして知る人ぞ知る高野峠の展望所。今日は湧き立つ雲を南風が押し上げて大荒れに荒れている。ここでは常に変わらぬ雲海だけでなく様々な景観を観ることが出来る。展望所に向かう林道から垣間見える様に思わずアクセルを踏み込んでしまうことも度々である。

## 応募作品



タイトル

波賀の魔境

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市波賀町音水 周辺

コメント

波賀町の景勝地、明神滝。二条に流れ落ちる様  
は深山の佇まいを見せる。だが右側の斜面をさ  
らに進み、滝口から観ると様相は一変する。中  
央の人面岩、噴き出すような二条の射流、スポ  
ットライトを浴びて逆巻く滝壺、正に魔境の様  
相を呈している。早朝の水平光によって虹も発  
生すると言えは、兵庫の名瀑シワガラの滝に勝  
るとも劣らないのでは...

## 応募作品



タイトル

雲河

ペンネーム

阿野 俊文

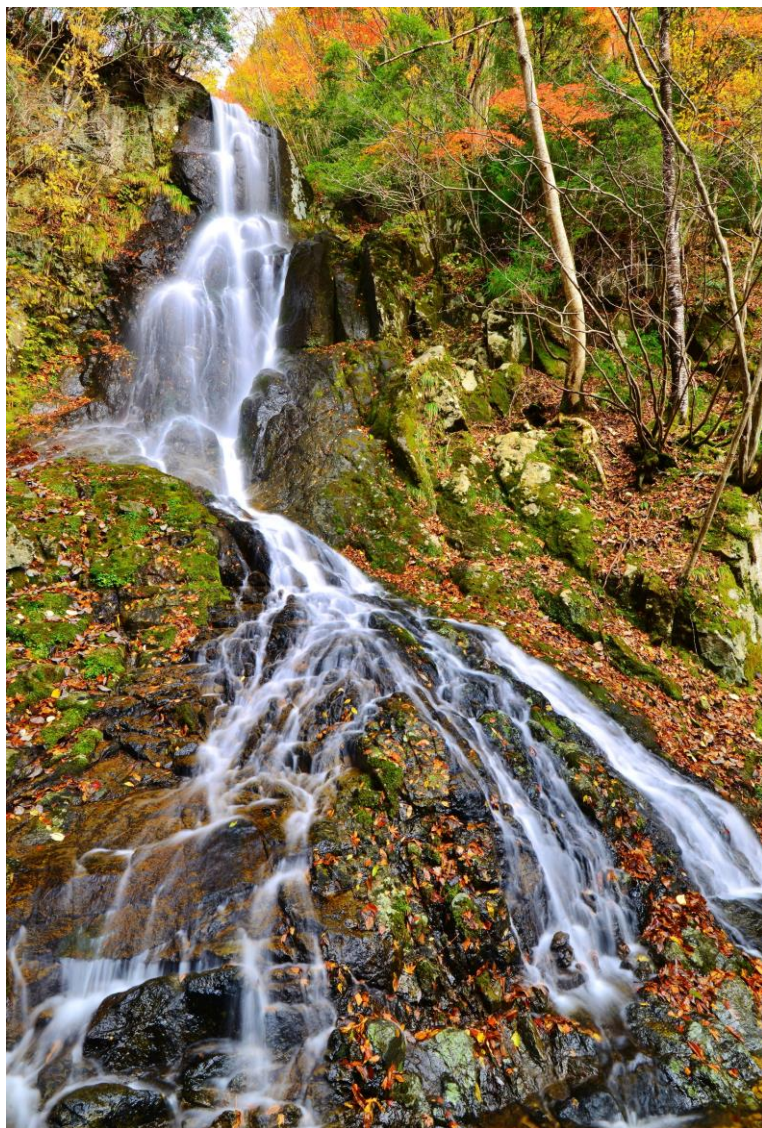
場所

宍粟市一宮町高野 周辺

コメント

「一宮町の絶景スポット」高野峠の展望所へ今朝も向かった。杉木立越しに真っ赤な空が垣間見えた途端、アクセルを踏み込んでいた。展望所に滑り込むと、茜色の空の下、羽衣のような雲河まで流れている。200mmレンズに付け替える間ももどかしく夢中で撮った。シルエットの天空回廊の峰々といい、現れた幻日といいまさに絶景スポットならではと...

## 応募作品



タイトル

落葉のF3

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市波賀町 中音水溪谷 周辺

コメント

中音水溪谷の幻の滝の上流には更に4つの滝が架かる。いずれも数十メートルの落差を誇る大滝である。中でも3番目の滝F3は見栄えがする。滝の落ち口のハウチワカエデが見事で3年越しに狙い続けたが、山頂に近く、渇水期とあっては、何しろ水量が少ない。紅葉シーズンもやや過ぎたころ、まとまった雨が降ったので出かけてみた。落葉の滝、それはそれで画にはなる。

## 応募作品



タイトル

霧が流れる

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市山崎町 最上山 周辺

コメント

宍粟市は 4 町とも雲海が見事である。中でも山崎町は都市部を包む様が珍しく、眼下に見渡せる篠ノ丸山上に昼夜を問わず何度も登った。今朝は市街を覆い尽くすようではなかったが、最上山のすぎこだち杉木立をすり抜ける霧の流れに何やらスーッと  
する気がして撮った。

## 応募作品



タイトル

雌株と雄株

ペンネーム

阿野 俊文

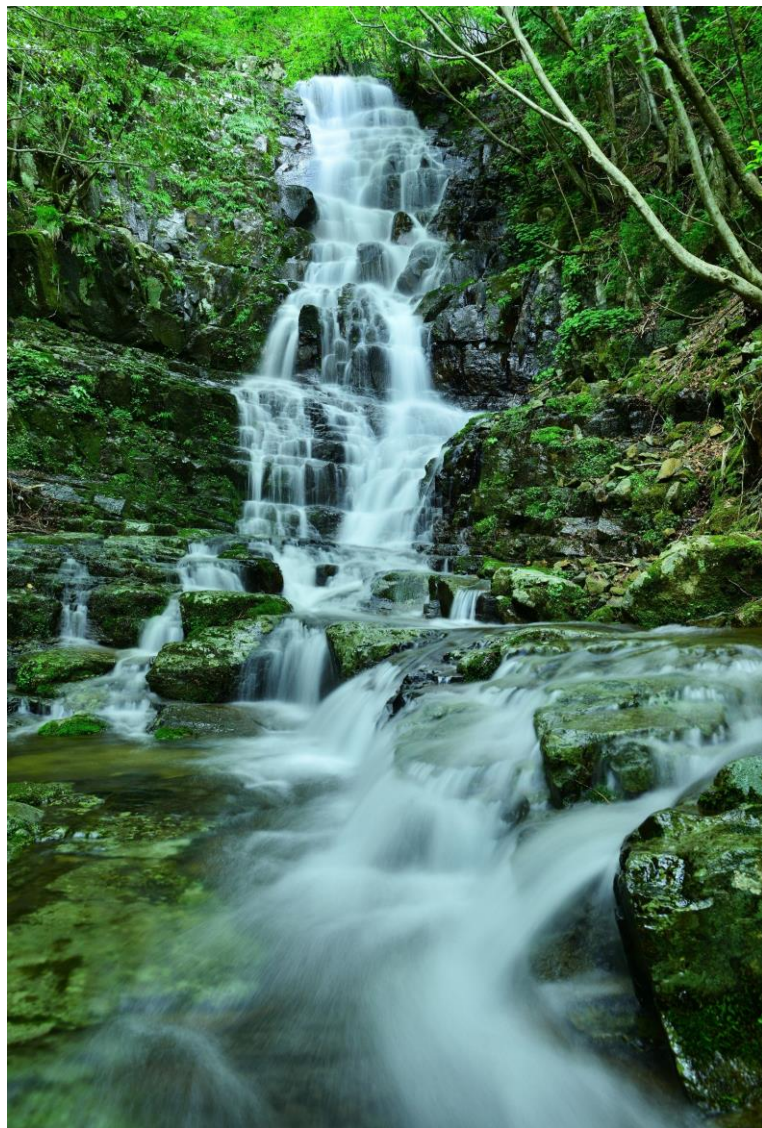
場所

宍粟市山崎町梯 周辺

コメント

黄色い絨毯で知られる岩上神社。10月の末に来てみると、片方の根本だけにびっしりと銀杏の実が落ちていて雌株と雄株なのだと気が付きました。銀杏の花粉は軽く、遠くからも飛来するようですが、より確実にとの先人の思いが込められているのかもしれませんが。役目を果たしたかのような雌株は先に紅葉し、雄株は少し遅れてるのではないかと想像しています。

## 応募作品



タイトル

幻の滝上段

ペンネーム

阿野 俊文

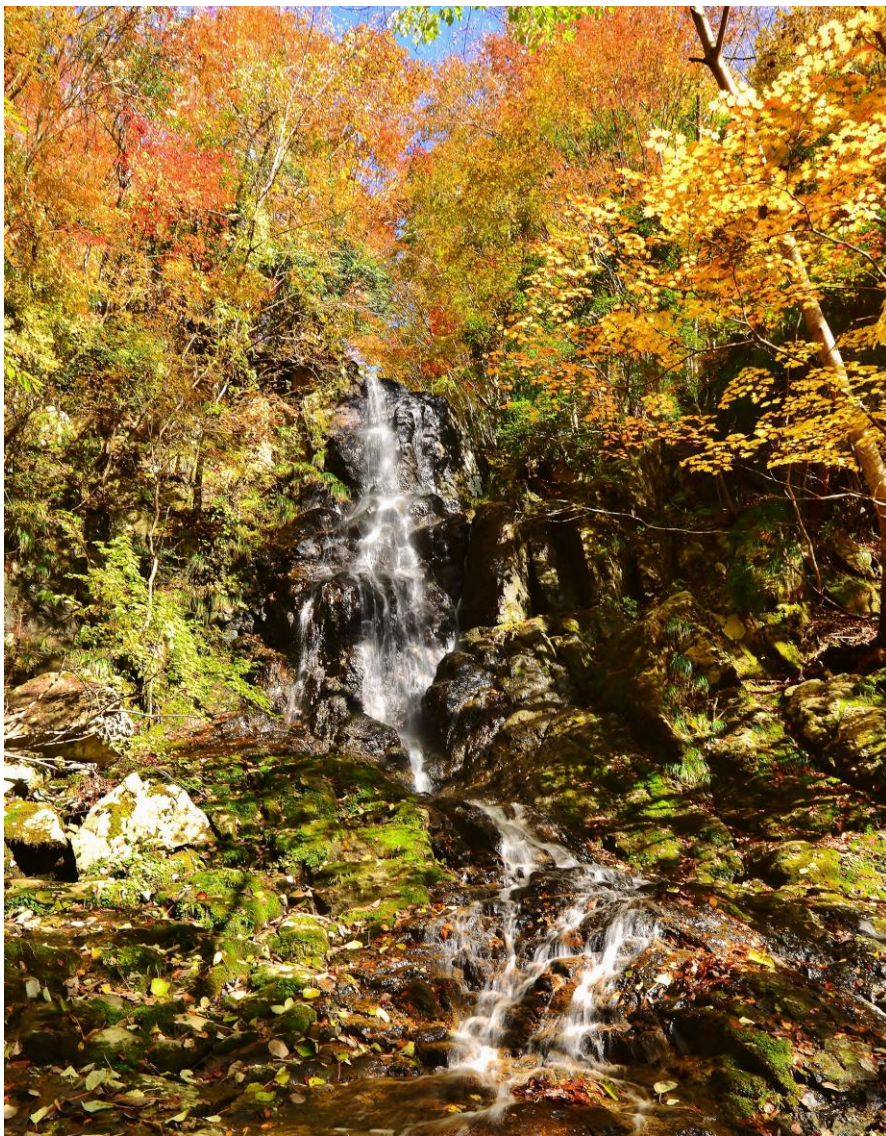
場所

宍粟市波賀町 中音水溪谷 周辺

コメント

中音水溪谷の幻の滝は、多段滝ながら、大きくは上下2段の滝で成っている。その上段の滝は30mほどの岸壁を流れ落ち、滝壺はないまま一枚岩を滑り下る。このスラブを右から左へと流れ落ちる様がなんとも言えず好いのである。さらに下段の滝へと落ちていくので、撮影に夢中になると危険でもあり、立木からのザイルでの安全確保は必須ではある。

## 応募作品



タイトル

ハウチワカエデのF3

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市波賀町 中音水溪谷 周辺

コメント

中音水溪谷の幻の滝の更に上流、3番目の滝F3はハウチワカエデが美しい。上空の青空と相まって、南向きのため光線の具合が様々に撮れるのもありがたい。ただ一つ、紅葉シーズンは渇水期の上に山頂が近く、稀に降る少雨はアツという間に流れ下ってしまう。つまり水量が乏しいのである。紅葉シーズンのまとまった雨を毎年待ち焦がれている。

## 応募作品



タイトル

にじ  
滲む街の灯り

ペンネーム

阿野 俊文

場所

宍粟市山崎町 周辺

コメント

阪神間での夜景に比べると、小規模ではあるけれど、雲海が出やすいという点において、山崎町の夜景は化ける。緑色の灯りは図書館周辺の街灯と思われるが、わずかな灯りでも雲海を染めることは可能なようだ。

## 応募作品



タイトル

観音堂での大数珠回し

ペンネーム

ひまわりばあちゃん

場所

宍粟市波賀町日見谷 赤山（観音山） 周辺

コメント

毎年8月17日参道と観音堂のそうじを村中総出で行います。そのあと村の安泰無病息災を願って参拝と18mもある大数珠回しと盆踊りを奉納します。大正時代1590年頃建立されたと伝えられ、それ以来村人が3人になっても絶やさず奉納すると誓ったとされる。

## 応募作品



タイトル

ポピー満開

ペンネーム

ひまわりばあちゃん

場所

宍粟市波賀町日見谷 周辺

コメント

休耕田を利用して、自治会でポピー  
を作りました。

満開の時に花畑のまわりにみんなで  
楽しく集います。

## 応募作品



タイトル

千年藤まつり子ども武者行列

ペンネーム

tond\_77.15

場所

宍粟市山崎町上寺

コメント

子供たちは重い衣装を身につけて、大勢の見物客の中をがんばって歩きました。ともすれば遅れようとする弟の手を引いて歩くお兄ちゃんがとてもたくましく見えました。

## 応募作品



タイトル

フォレストステーションのシャクナゲの森

ペンネーム

tond\_77.15

場所

宍粟市波賀町上野

コメント

フォレストステーションの建物から奥に入ったところにひっそりと咲くシャクナゲ。小道も整備されており、上まで登り見下ろした時の感動は忘れられません

## 応募作品



タイトル

シソラミチ

ペンネーム

tond\_77.15

場所

宍粟市山崎町 シソラミチ

コメント

また一つ宍粟市に大きな財産ができました。暗くて夜は走り抜けていた山崎インター歩行者通路が素敵に生まれ変わりました。宍粟市の四季が描かれた壁面はどこを撮っても絵になります。植田志保さん本当にありがとうございます！